

妙頓寺
だより
73号

緑光

発行者
〒960-0231 福島市平野字菟内屋敷14
TEL 024-542-4306
FAX 024-573-6650
浄土真宗本願寺派
入江山 妙頓寺
菅生 哲陽



《 梯 實 圓 和 上 》

しゅつ せ ほん かい
「出世本懐」

元本願寺勸学寮頭

かけはしじつ せん わじょう
梯實圓和上ご法話

如来世にょらいよに興出こうしゅつする所以ゆえんは、唯ただ弥陀みだの本願海ほんがんかいを説とかんとなり。
五濁悪時ごじゅくあくじの群生海ぐんじょうかい、まさしく如来真実言にょらいしんじつごんを信しんずべし。

ご讃題の「正信念佛偈」の「如来所以興出世」のご文は「出世本懐」と言い伝えられています。

そのお心は、お釈迦様だけでなくあらゆる仏陀たちがこの世に出現されお説法をされるのは、ただ阿弥陀仏の本願のお心を一人ひとりに知らせて、その一人が阿弥陀仏の本願をたのみ、おまかせする身となって、お浄土に生まれていく、そういう身になって欲しいと願ってこの世に出現されたのだと言われているのです。

出世本懐とは、この世にいられた本意（本当の目的）という意味です。このことは、ただお釈迦様の本意というのではなく、全ての仏様の本意のことであり、同時に全ての人の出世の本意でなければならぬと思うので

す。「お前は何のために生まれてきたのだ」と問われた時に「私はこの本願を聞かせて頂くために生まれて来ました」という事が味わえることが肝要です。

逆にその本意がぼやけてしまったら生涯を通じていろんなことをやってきたとしても、おそらく何か虚しい思いの中で終わらなくてはならぬならないでしょうか。

人生にはいろんなことがあります。うれしいこともあれば悲しいこともある。いやなことあれば、飛び上がるほど感動することもある。それを一言でおさめることが出来ないとは結局人生バラバラで生涯を費すものはない。そういう虚しい人生になるのではないのでしょうか。先ほどのご讀題で親鸞聖人は

随分と書き直しておられます。

「如来所以興出世」を最初は「釈迦所以興出世」としていましたが、それではお釈迦様だけのことになってしまいます。しかしこの出世の本意とは「私にとつて何なのか。」と自分のこととして尋ねられたのです。そして「如来所以興出世」とすること

により阿弥陀仏の本願を説くことは全ての如来、さらには全ての人が自分自身のこととしてはつきりと確認しなければならぬ問題であることをお分かりになられたのでしょうか。それが明らかになった時に私が如来となる道が明らかになるのです。

お釈迦の本意とは何かと教学的に求めることも大切ですが、お釈迦様と私とが、御開山様と私とが、法然上人と私とが南無阿弥陀仏という一点において全

く一つだというものがありませんと話は非常に通ずるようになるんです。皆さんもどうですか。

「お念仏の教えを聞いて本当に良かったですね。結構なことでは

今年の出来事

一月八日 新年役員会

恒例の新年役員会が飯坂の「湯左衛門」で開かれました。毎年の寺からの年末礼状に子細の案内を掲載していますが、世話人の方以外でもカラオケの好きな方などが申し込んでもらえば参加できます。例年飛び入りの方も加わって、二次会まで楽しんでいきます。

来年もより多くの皆さんの参加を期待しています!!

すね。ありがたいことですね。」

とお互いに言えるような身になると生き方が全く違って、懐かしい善き友という事になるのでしようね。

行信教校機関紙「二味」737号より



新年役員会 飯坂「湯左衛門」にて

**十五世住職専学の生家、
清浄寺の御門徒が
五月六日妙頓寺来訪**

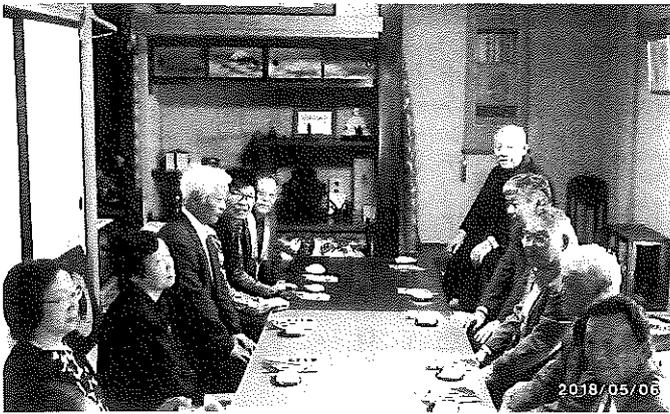
当寺十五世住職専学は、山形県村山市大久保にある清浄寺から婿として入山しましたが、彼の父親は片桐法幢と言ひ、東北一円で布教使として活躍しましたが、三人の息子はそれぞれ福島、酒田、東根市に婿に入りました。

その後、事情で清浄寺の後継者は寺を継がなくなつてしまいましたので、専学の弟の東根市の故野田法龍さんがこの寺の面倒を見てきました。続いて息子憲雄（前正福寺住職）さんが、清浄寺の住職として寺の再興に尽力され、現門徒数五十戸の皆さんと協力して、見事に本堂を再建されました。その同志的門徒の皆さん（門徒さん全員が寺を興隆させ、行事にも多数積極的に参加してくれています。）

と、この度清浄寺ゆかりのある福島の寺ということで訪ねて頂きました。※専学の姪にあたる綾子が当寺前任職哲鳳に嫁ぎ、

現在九十七歳で健在で、清浄寺の昔を懐かしがって山形の皆さんとも交流があるのも一因であると思ひます。

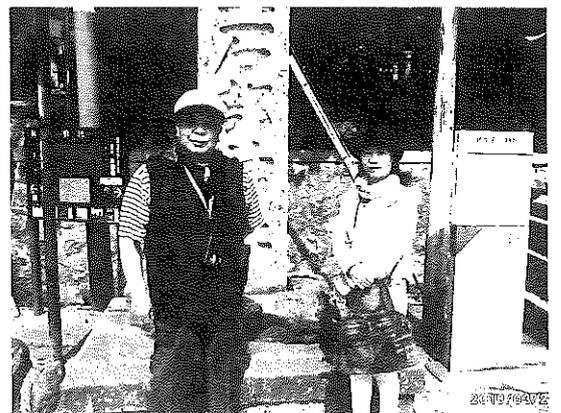
皆さん活気があり和気藹々としており、おかげ様で楽しい一時を過ごさせていただきました。



**三月二十七・二十八日
菅生家のルーツを尋ねて
北陸へ**

菅生という苗字は福島では稀ですが、宮城県村田市には妙頓寺（大谷派）という寺もあり、旧菅生村の記録には、そこにはかつて城があり、一族で福井県大聖寺の菅生から移住したことが載せられています。その菅生出身の僧「願正坊」は、蓮如上人に随行して松島まで来て、東北に残り宮城、山形、岩手、福島にちなみの寺院を建立されたことが記録にあります。

かねてより住職は、我が家のルーツを訪ねて北陸に行きたいと念願していましたが、北陸新幹線もできたので、坊守と二人で石川県まで行き、金沢別院と兼六園を巡った後に、翌日菅生石部神社とすぐ近くにある吉崎御坊（この地は福井県との県境になっています）を参拝してき



ました。

菅生の里は既に無く、石部神社の境内地になっていましたが、菅生の名前だけ神社の頭について辛うじて残っていました。この神社のすぐ近くに蓮如上人ゆかりの吉崎御坊がありました。この近さであれば、願正坊と上人のご縁もさぞや深かったであろうと独り得心した次第です。御坊の上にある高台は公園になっており、日本海が一望でき、また上人ゆかりの銘文が彫られた石碑も多くありました。

全国仏教壮年東北大会を終えて



妙頓寺方部役員・
東北教区仏壮理事 丹野 功一

昨年九月二日に、仙台市で「第二十二回全国仏教壮年東北大会」が開催されました。いくつかの思い出もまじえて、ご報告申し上げます。

平成二十四年に、菅生ご住職より、東北地区仏教壮年会連盟の理事になってほしいとお話がありました。先代のご住職と坊守さんにも、家族と子どもお世話になっておりましたので、引き受けました。日頃より、いずれは声がかからない時が来るので、声のかかる内は、できる範囲内でやってみようと考えています。この時も、そのような想いをもって、微力ではありますが、決心したところです。

理事を引き受けてからの二年後に、「第二十一回全国仏教壮年福岡大会」がありました。理事全員が参加しました。三千名

を越える盛大な大会で、見るもの、聞くもの全てが初めてであり、ボランティアの方もたくさん居り、すごい大会だなあと感動致しました。佐藤治雄理事長には、色々教えてくださり、

ありがたく思っております。その後、東北別院の方々を中心として、実行委員会や実行部などの組織を編制して、動き出しました。実行部は、「会場・誘導部」、「行事部」、「庶務部」の三部門に分かれ、福島北組は、庶務担当となりました。一番つらかったのは、前日の各種資料や記念品「希望のかけ箸」などの袋詰めと、当日、その袋を各席に配ることでした。年を感じさせられる作業でありました。飯坂町西覚寺の井上照仁ご住職さんには、大変お世話になりました。そして、「ともにいのち輝く

朋友の笑顔」という本大会のテーマで、約千三百名の参加者を迎え、トークネットホール仙台（仙台市民会館）で開催されました。荘厳な雰囲気の中、ご門主様ご臨席のもと、開会式、表彰式、記念講演とおごそかに進められました。

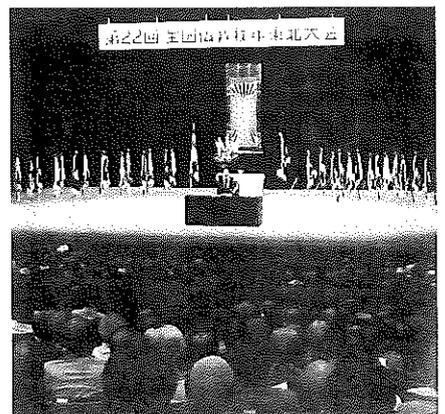
開会勤行は、七名の理事が行うので、「称え合わせ」という練習のため、東北別院に三度招集され、歩き方やおじぎの仕方、聖典の扱い方など、厳しく指導を受けました。

当日は、山形県のご住職の調声で唱和しましたが、ご門主様や多くのご門徒様の前では、緊張の連続でありました。この時の自分の行動は、頭の中に何も残っておりません。

世話人となって、約十一年が経ちましたが、忘れられない思い出が、二つあります。

一つは、東日本大震災のあった平成二十三年九月に、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要に参加したことです。家内と子ども、めったにできない経験を見せていただきました。

もう一つは、平成二十七年に



秋保温泉「佐勘」での東北地区壮年会と婦人会の合同研修会に参加したときのことです。夕事勤行において、「重誓偈」の調声を勤めました。大勢の方の前で、一人で勤めるのは、初めてでありました。一か所だけ、リンの打ち方を忘れましたが、何とか無事終えることができました。これもひとえに、出かける数日前に、菅生ご住職さんより、色々ご指導を受けたからであります。心から、感謝申し上げます。

この研修会での経験や各種の行事に参加したことが、東北大会という場でも、理事七名の中の一人として、どうか開会勤行を勤められたのではないかと思っております。

なお、福島北組の理事として、桑折町常称寺の氏家浩様が就任致しました。ご活躍をご念じ申し上げます。

最後になりましたが、今年で傘寿になります。「ときは流れ

東北教区 仏婦委員を終えて

佐藤 千恵子



義母、義父、そして平成十五年に主人が亡くなつてか

らしばらく後ご住職より名前だけでいいからと話があり、方部役員と北組仏婦役員をお引き受けし、あれから十数年東北教区仏教婦人会連盟委員をおおせつかり協力してきました。

平成十八年から三年間は教区の会議にあまり出れませんでした。平成二十一年からは常任委員となり年に二、三回仙台別院での委員会に出席してきました。その中でも思い出に残る行事

で、「ときと知り」という心境です。老いることは、自然の姿であり、流れであります。その流れにさらわらずに、のんびり過ごしたいと思っている日々です。

は二十三年九月の仙台国際センターでの東日本大震災現地追悼法要でした。

また二十四年二月の松島（一の坊）での仏婦連盟六十周年記念式典が荘厳な中で開催されました。浄土真宗みなさんの結集力が大変見事でした。また個人的に思い出深いのは二十七年五月に岩沼市千年希望の丘で行なわれた東日本大震災復興支援「森の長城プロジェクト植樹祭」にボランティアとして五千名参加の一員として植樹してきたことが今でも脳裏に焼き付いています。自分の名前を付けて植樹した木を何年か後にどの位に伸びたかを見届けに行けたら嬉しい限りです。

平成三十年三月「恩返し」感謝に敵なし反省は無限なり」の心境で仏婦委員の役割りを終了いたしました。

訃報

昨年のお盆から一年間で、本当に多くの大切な方々がお亡くなりになりました。世話人さんや寺の近くのご門徒で日頃から大きな行事には献身的にご協力をいただいて来られた方々です。心から哀悼と感謝の念を捧げます。お浄土で必ずみ仏としてまたお会いしたいと願っています。

●菅野重義様 平成二十九年八月九日 行年七十六歳

大笹生座頭石方部世話人 祖父重四郎さんご逝去後五十数年間役員として貢献されました。

●丹野勝富様 平成二十九年九月六日 行年八十一歳

笹谷さくら水方部連絡員として寺行事案内チラシ配布や維持費納入受け取りの任務をご協力いただきました。

●平井ヤイ子様 平成二十九年九月一七日 行年七十七歳

夫故一夫さんと報恩講などの行事には率先してご協力いただきました。

●羽田テルミ様 平成二十九年一月一日 行年九十一歳

寺責任総代を務められた夫兼男さんを扶け農業に従事して、寺の行事もいつも和やかな微笑で参加していただきました。

●羽田ミヨノ様 平成二十九年九月二十日 行年八十九歳

夫故信幸さんと報恩講などの行事には率先してご協力いただきました。

●羽田昭吉様 平成三十年一月一日 行年八十九歳

妻故ミツノさんと報恩講などの行事には率先してご協力いただきました。

●沖野満雄様 平成三十年一月三十一日 行年八十二歳

故万次郎さんの後を受けて、笹谷新町方部の役員を担当されました。

●羽田コウ様 平成三十年二月十八日 行年九十五歳

篤内の寺隣門徒として報恩講などの準備に協力いただきました。

●佐藤昭治様 平成三十年七月三日、行年八十七歳

寺隣の檀信徒で、妻のセツ子さんと共に歴代住職や前坊守皆が何かとお世話になり、毎年佐藤家で揃ってもらった餅は楽しみでした。

昭治さんは、長年飯坂・平野の交通安全協議会、社会福祉協議会、農用地基盤整備事業副委員長等などの地区振興と安全のために献身的に尽力されてきました。

住職法話

浄土真宗の御本尊の御木像

浄土真宗の「御本尊」の意味するところ

なぜ御本尊は南無阿弥陀仏のお念仏なのでしょうか。

『阿弥陀仏』は、●「誰一人漏らすことなく」、●「途中で見放したり、なげだしたりせず」、●「末通って必ず浄土に往生させて、全ての衆生の煩惱の苦しみを超えさせたい。」という誓いを仏としての存在を懸けて成就させられ、今現在遂行して下さっている如来様であります。

また『南無』とは、如来の方から、「煩惱の苦しみや辛さを超えるため、わが名を称えよ。」と招きよびかけて下さっている姿を現します。

宗祖親鸞聖人は、南無阿弥陀仏というお念仏は、阿弥陀仏

本願に依り所として、凡夫が仏になるための全ての徳を完璧に備えられているので、私たちの煩惱を破り、仏智を育て、成就させてくれる力を与えている

のだと受け止めています。
《この如来の働きを即是其行と

言い、名号を全徳施名といひます。》

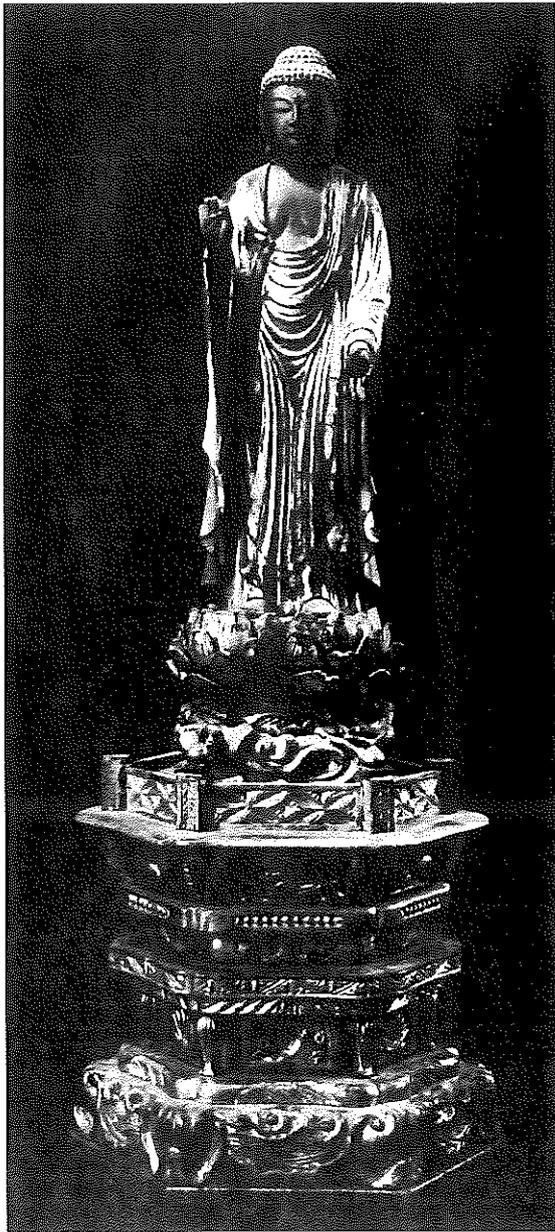
寺院や本山の御本尊は、立像が安置されているのはなぜでしょうか。

立像を住立空中尊といひます

が、善導大師は、そのお姿には大変深く尊い意味があることを明らかにしています。

① 証得往生の義↓往生を得ることを証し給う

あなたは一人ではない。限りないのちの親が決してあなたを見落とさず、見放さず、抱き止めて、間違ひなく浄土に往生させて救います。と働きかけてくださっている姿



阿弥陀如来御木像
(妙頓寺蔵)

です。

② 立即得生の義

立っているお姿は、如来を信じ、自力を離れば、たちどころに速やかに往生すべき身に定まるのだよと如来の方から歩み寄ってくださいっていることを意味しています。

③ 立撮即行の義

私を決して見放さない如来様の心に、動かされて、歡喜信受して如来の確かな願いと誓いを信じ、受け止めることができるように育てられる。

このように「南無阿弥陀仏」のお名号は、私たちの煩惱などで汚れた願い、例えば商売繁盛とか自分たち家族だけは災難に遭わないようにとか、人より少しでも待遇の良いお浄土に往くことができるようにとか、自分

の都合や損得を基にして祈った
り、請求することではありませ
ん。如来の方から煩惱にまみれ
た私達を、憐れみ悲しまれて、
仏になる道を与えて下さってい
るのが名号なのです。

ですから称名念仏は、如来の
方から、智慧と慈悲とを全力で
働かせて、この私を浄土に往生
させ、迷いと苦を超えていく道
を与えられたものなので、その
本願のお心の本意に目覚め、感
動し、信受させられれば、念仏
を称えることに躊躇も戸惑いも、
まして何の気後れ感も持たず、
仏徳を讃嘆させていただくこと
が身につき高らかにお念仏が称
えられるようになります。



後列左より、住職、二女 和香子、夫 吉崎登志夫、
三女 佐知子、その夫 善村伸也、その娘 彩弥代、
長女夫 ブーシェル・ヘンリー、長女 真貴子、
前列長女の二男 蓮、坊守 悦子、前坊守 綾子、長女の長男 快

住職夫妻子供たちと 古希のお祝い会

去る六月二十一日、住職夫妻の古希記念を祝うために、子供たちや孫たちが一同に集合して、ささやかな小宴と記念写真とを撮影いたしました。気づかぬ内に子供たちは一人前の大人になり、孫たちも大きく成長しています。住職として残された人生をささやかながら実りあるものにしていければと願っています。

平成30年度 盂蘭盆会供養法要日程表

- ◎ 初盆供養の人で、8月17日6時半から阿武隈川河畔で行われる、福島市仏教会主催の灯籠流しを希望する方は、13日までに寺に申し込んで下さい。
電話で結構です。費用は一灯 1,200円納入になります。

日時(曜)	午前の部 《8:30 から 12:00》	午後の部 《2:30 から 18:00》
10日(金)	●法事または家族単独でのお盆供養の希望の方電話で申し込んで下さい。	
11日(土) 12日(日)	●法事または家族単独でのお盆供養の希望の方電話で申し込んで下さい。	
13日(月)	① 《盂蘭盆会法要》 午前9時30分から <u>笹谷団地、南沢又(東谷地)、平野北、飯坂、北沢又、上谷地、笹谷新町、前田、原町、堰場方部の皆さん</u> ② 《初盆会法要》 午前11時から <u>方部に関係なく、親戚の方皆さんで御参詣下さい。</u>	
14日(火)	① 《盂蘭盆会法要》 午前9時30分から <u>杉の平、中野、座頭町、水口、萱場、庭坂、平野団地、遠東、飯塚、桜水、松北町、森合方部の皆さん</u> ② 《初盆会法要》 午前11時から <u>方部に関係なく、親戚皆さんで御参詣下さい。</u>	
15日(水)	① 《盂蘭盆会法要》 午前9時30分から <u>石橋、発股内、恵西、小深田、明神町、箆内屋敷、重恩寺、福島市内、その他の方部の皆さん</u> ② 《初盆会法要》 午前11時から <u>方部に関係なく、親戚皆さんで御参詣下さい。</u>	●午後は、希望者のご自宅でのお盆回経 →希望の方は電話で申し込んで下さい。 ※ただし申込は1週間前まで！ ◎参詣の皆さんには、好評の「棚堂さん」をプレゼントします。 ※数に限り有り。
16日(木)	●ご自宅での盂蘭盆会回経または家族単独でのお盆供養の希望の方⇒希望者は電話で申し込んで下さい。 ※ただし申込は1週間前まで連絡下さい！ ※方部の違う方も都合の良い日程を選び法要日でも結構です。	

《お盆に持参するもの》

- お盆の時には、生花・供物は寺で準備しますので持たなくて結構です。
- 各家の過去帳は必ず持参して、受付でお名前を記帳して下さい。